

幼児の運動あそびについて

濱野 翔伍（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員 谷川 尚己

キーワード：基礎的運動，自由な発想，大型遊具

1. 緒言

幼児期からの「運動あそび」は、将来に成長に向けて重要な時期だと考える。その教育的意義は大きく、自身の経験が外部と接続し、豊かな成長に繋がるものである。そこで、今回、幼児の運動あそびについての文献を調べ、子どもたちの将来につながる運動あそびの科学的なデータや取り組みの具体例をもとに、その方向性について検討した。

2. 研究方法

「幼児の運動あそび」について、幼児の基礎的動き、基礎的な動作の発展、遊具を使った運動あそび、大人の関わりの4項目の文献研究を行った

3. 結果と考察

1. 幼児の基礎的動き

幼児期の発達段階と運動について、3歳頃から跳躍運動が獲得され、4歳にかけては全身運動が多様化し、5歳頃には巧緻的な運動に広がるとしている。すなわち、幼児期には、基本的な運動やあそびを幅広く体験させることが示唆されていると考える。

2. 基礎的な動作の発展

自由な発想を運動遊びに生かす工夫が必要である。身近なものを使うことによって、運動を身近に感じ、いつでもどこでも運動ができるので有効だと思われる。また、環境の設定を変えることで、子ども達はいろいろな運動を工夫し、多くの経験をすることに結びついていく。幼児期から指導者から与えられたものを行うだけでなく、自ら工夫する習慣を獲得することが重要で、指導者は、それらを受け止め、さらに膨らませる契機となる助

言を与えることが大切だと考える。

3. 遊具を使った運動あそび

近年、大型化された遊具が開発されている。すべり台やジャングルジムなど複数の種類の物が一つにセットされたものも多く活用されている。この大きな遊具では、多くの園児が興味のある所で、それぞれにあそぶことができている。園児たちは、これらの遊具によって、発達段階にあった能力はもちろん遊具で触れ合いながら仲間意識も身に付けることになるだろうと考える。

4. 大人の関わり

子ども達と、寒空のもと、親子でともに駆け回ったりすることは大切であり、大人の関わるあそびは、幼児の成長を高めると考える。

4. まとめ

幼児の運動あそびについての文献により、検討し、以下の知見を得たので報告する。

1. 幼児のあそびは、跳躍運動、全身運動、巧緻的な運動を行うなど、基礎的な動きを取り入れることが大切である。

2. 身近な生活用品を用い、自由な発想で運動遊びを行わせることによって、運動を身近に感じ、いつでもどこでも運動ができるので有効だと思われる。

3. 遊具を活用したあそびは、多様な発見をする契機となり、幼児の成長を促すことになる。遊具と触れ合いながら仲間意識も身に付けることになるだろう。

4. 大人がともにあそぶことによって幼児の成長を高めると考える。

引用・参考文献

佐々木玲子（2003）乳幼児期の発達段階と運動遊び、子どもと発育発達、第1巻、第1号